

自治医科大学看護師特定行為研修センター年次報告



2022 年度

2023 年 6 月

自治医科大学看護師特定行為研修センター

Jichi training center for nurse designated procedures (J-ENDURE)

目次

I 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 看護師特定行為研修センター概要……………1
2. 看護師特定行為研修センター関連委員会……………2
3. 看護師特定行為研修センター教職員概要……………3
4. 看護師特定行為研修センター協力施設概要……………3
5. 看護師特定行為研修センターの主な取り組み等……………3
6. 入講生、修了生の概要……………4

II 看護師特定行為研修センター活動報告

- 1) 教育報告……………8
- 2) 研究報告……………34

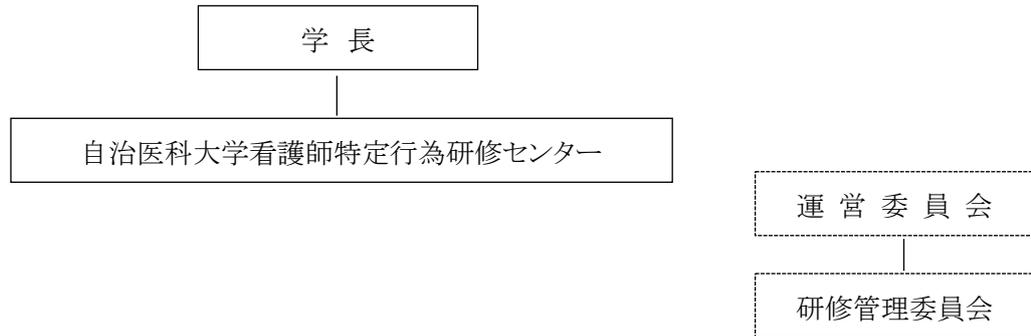
I 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 特定行為研修センター概要

特定行為研修センターは、自治医科大学が保健師助産師看護師法(昭和23年法律第203号)第37条の2に基づく指定研修機関として特定行為研修を適切に実施するため設置された(自治医科大学看護師特定行為研修センター設置規程 昭和27年規程第59号)。

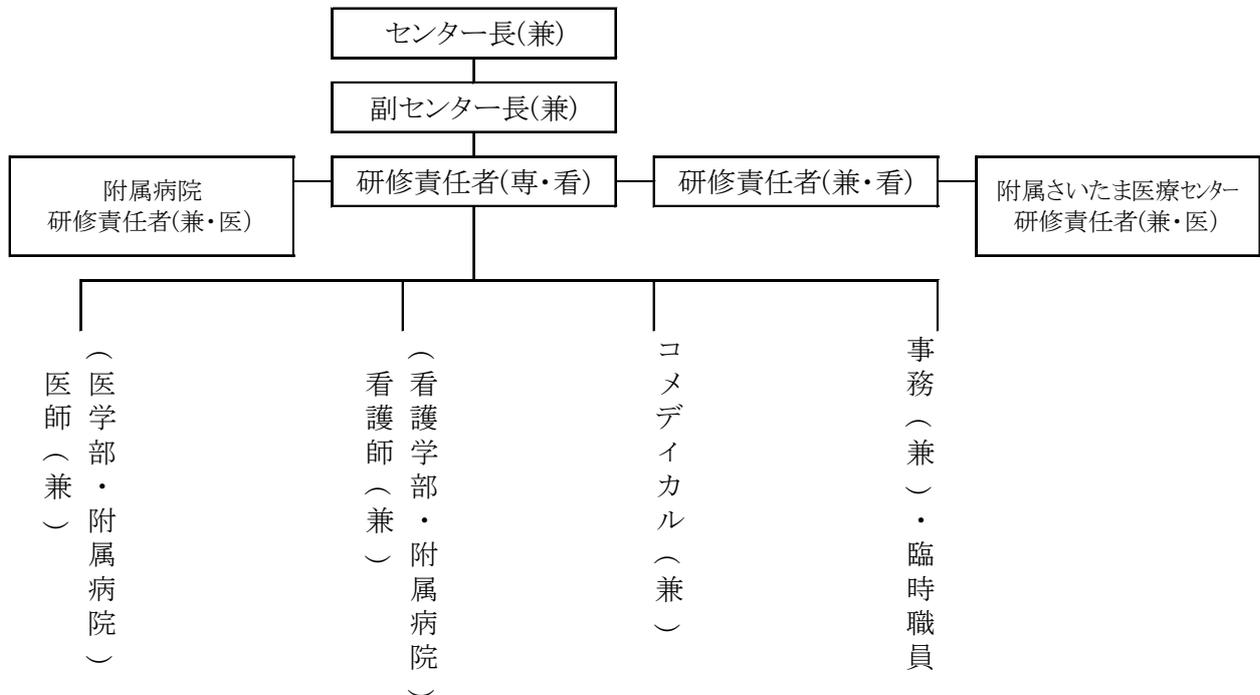
組織体制

大学における位置付けは、大学の組織とし、学長の直属機関とする。
センターの運営を円滑に行うため「運営委員会」を設置する。



センターの構成員

センター長、副センター長、研修責任者(うち1名は専従)、指導者・指導補助者及びその他の職員で構成する。



※附属病院とは、附属病院と附属さいたま医療センターを示す

2. 特定行為研修センター関連委員会

特定行為研修センターは、下記の委員会を設置し、管理・運営や教育・評価内容の妥当性などを検討し、審議している。

- ・特定行為研修運営委員会(2ヶ月に1回の年6回開催)
- ・特定行為研修管理委員会(年2回、9月及び3月に開催)
- ・特定行為研修安全管理委員会(必要時 臨時開催)
- ・科目担当者会議(年6回)

1) 特定行為研修運営委員会

特定行為運営委員会の構成員はセンター長を中心に 17 名で構成され、主にセンターの運営を円滑に行うための以下の事項を審議する。

- (1) 施設及び設備の整備に関すること
- (2) 適切な指導体制の確保に関すること
- (3) 医療に関する安全管理のための体制の確保に関すること
- (4) 規程等の整備に関すること
- (5) 自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会及び自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会に関すること
- (6) その他、特定行為研修の実施に関する必要なこと

2) 特定行為研修管理委員会

特定行為研修管理委員会には外部委員を含め 15 名で構成され、以下の審議を行う。

- (1) 特定行為区分ごとの特定行為研修計画の策定に関すること
- (2) 2 つ以上の特定行為区分について、特定行為研修を行う場合の特定行為研修の相互間の調整に関すること
- (3) 受講者の履修状況の管理に関すること
- (4) 修了の際の評価などに関すること
- (5) その他、特定行為研修の実施及び管理に関すること

3) 特定行為研修安全管理委員会

特定行為研修センター専従研修責任者の招集により、事故等報告書が提出された場合に、研修責任者ならびに該当科目の指導者等の関係者で構成され、安全管理に関しての審議を行う。

4) 科目担当者会議

研修生の学習進捗状況や教育内容に関する情報の共有を行う。科目担当者会議は看護学部および看護師特定行為研修センター教員を中心に特定行為研修に関わる看護学系教員で構成されている。

特定行為研修運営委員会と特定行為研修管理委員会は遠隔会議とした。また、特定行為研修安全管理委員会は開催しなかった。

3. 特定行為研修センターの教員概要(R5.2 現在)

1) 共通科目

共通科目では指導者として 29 名、指導補助者として 10 名が教育に関わった。

年度	指導者	指導補助者
2022 年度	29 名	10 名

2) 区分別科目

区分別科目では指導者として 122 名、指導補助者として 49 名が教育に関わった。客観的臨床能力試験の外部評価者は、10 名であった。

年度	指導者	指導補助者
2022 年度	122 名	49 名

4. 協力施設の概要 (R5.2 現在)

区分別科目の実習では、条件を満たす受講生の自施設を協力施設として申請し、自施設で実習を行うことができる研修体制・指導体制を調整した。

条件: 指導者となる医師の確保 (臨床研修医指導者講習会受講歴有)、実習期間の症例数の確保 (半期 10 症例以上)、医療安全体制の連携、学習環境の確保など

年度	協力施設	指導者
2022 年度	47 施設	253 名

※2022 年 11 月に本研修センターの在籍者が 2 年以上いない協力施設について、厚生労働省へ取下げを行った。(取下げ数: 協力施設 31 施設 指導者 87 名)

5. 特定行為研修センターの主な取り組み等

特定行為研修センターは、2020 年度から外科基本領域パッケージ、術中麻酔管理領域パッケージ、集中治療領域パッケージの 3 種類の領域パッケージが追加され、現在合計 20 特定行為区分、5 領域パッケージを開講している。

特定行為研修センターでは、開講時より以下の研修目的・目標を掲げ、研修を行っている。

研修目的

地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成する。

研修目標

- 1) 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
- 2) 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
- 3) 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養う。

4) 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を把握しつつ、4月期・10月期各定数30名(各特定行為区分の定数は、実習期間ごとに上限5名)の受講生を募集した。また、区分別科目の追加受講希望者を受け入れた。

募集に関する広報活動においては、本学ホームページ上に研修センターの教育紹介に関する動画を新たに掲載した。大学附属病院2施設には、看護部に直接募集に関する情報を提供した。また、例年通り、看護学部、看護学研究科の教育に関連している病院や施設、都道府県の看護協会に広報用のリーフレットを配布した。看護系雑誌や医学系新聞等への募集記事掲載も継続して実施した。学内に対しては入講式ならびに修了式に関する記事を学内広報誌に掲載し、活動状況等の周知を図った。

教育活動としては、一部の共通科目を除き、講義は学習支援システムとして Moodle を活用した。また、学習効果を高めるため、学習記録システムとして Mahara を用いて、受講計画立案・評価や日誌共有等を促した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、来校および実習参加要件に加え、基本的な行動規範や体調報告等について明記した指針を状況に応じて設定し、周知した。

実習においては、共通科目は大学と附属両病院にて、区分別科目では附属病院に加え可能な限り受講生の自施設を協力施設として申請し、就労継続しながらの実習を可能とした。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、おおむね履修期間内に実習を進めることができた。緊急事態宣言等により大学または附属両病院に来学できない状況やワクチン接種が予定通り完了できなかった場合等には、研修生や指導者等と協議し、日程や実習場所等の調整を行った。

附属病院の実習環境の整備としては、電子カルテ等の権限調整、各診療科への協力依頼、指導者・指導補助者への実習指導の依頼説明など随時関連部署と調整した。また、これまで通り、研修の質の向上のため、動脈血液ガス分析関連や PICC 関連、呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連などは、関連企業と連携した外部研修(対面もしくはリモート)を提供した。

2018年度から実施している区分別科目の研修修了後のフォローアップ研修は継続して実施した。また、これまでと同様に、修了生への特定行為制度に関する情報提供、修了生間の情報提供、フォローアップの研修企画の案内、研修生の学会や依頼公演等のサポートを行った。

そのほか、他の指定研修機関の申請準備や研修教育の質問等に関しては、積極的に対応した。また、各種学会の学術集会やシンポジウム、都道府県行政からの説明会などの講演依頼は受けるようにし、修了生の講演依頼の推薦なども行い、本研修制度の普及に最大限努めた。さらに、修了生の活動の実態や評価につながる調査研究、指定研修機関の実態や課題への取り組みのための調査研究にも取り組んだ。

さらに、研修に関わる指導者の養成を行うために、年2回看護師特定行為研修指導者講習会を開催し、のべ57名が講習を修了した。指導者講習会修了者57名中、本研修センターの修了生が5名おり、今後本研修の実習指導及び観察評価試験(OSCE)の外部・内部評価者として、研修指導を担うことが期待される。

6. 入講生、修了生の概要

2022年度はのべ54名が入講した。そのうち再入講者は10名であった。

(※再入講者:2年の在籍期間を終え、再度入講した研修生)

1) 入講生の概要

2022年度は4月期28名、10月期26名が入講した。入講生の所属施設概要ならびに年代および性別を表1・表2に示す。入講生の所属施設は「その他の病院」が29名と最も多く、次いで「自治医科大学附属病院」が10名、「へき地医療拠点病院」が9名であった。「自治医科大学附属さいたま医療センター」が2名、「訪問看護ステーション」からは1名が入講した。入講生の年代は30代～40代が約8割となり、全体の6割以上が女性を占めた。

入講時の区分別科目受講希望状況を表3に示す。「栄養・水分管理に係る薬剤投与関連」と「動脈血ガス分析関連」、「栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連」の受講希望が多かった。また、領域別パッケージの受講者数は、「在宅・慢性期領域パッケージ」が最も多く全体の約5割を占め、次に「集中治療領域パッケージ」「外科系基本領域パッケージ」が多かった。

表1 2022年度の入講生の所属施設種別

施設種別	4月期	10月期	合計(名)
自治医科大学附属病院	7	3	10
自治医科大学附属さいたま医療センター	0	2	2
看護学研究科	0	0	0
訪問看護ステーション	0	1	1
へき地診療所	0	0	0
へき地医療拠点病院	5	4	9
その他の病院	16	13	29
その他(障害者施設、特養、診療所、NPO団体)	0	3	3
合計	28	26	54

表2 2022年度の入講生の年代および性別

年代	性別	4月期	10月期	男女別計	計	
20代	男性	2	1	3	7	13.0%
	女性	2	2	4		
30代	男性	4	5	9	19	35.1%
	女性	7	3	10		
40代	男性	3	4	7	22	40.8%
	女性	7	8	15		
50代	男性	1	0	1	6	11.1%
	女性	2	3	5		
合計	男性	10	10	20(37.0%)	54	100%
	女性	18	16	34(63.0%)		

表 3 2022 年度の入講生の区分別科目希望数

※入講時のデータであり、入講後の取り消し及び追加等は含まない

区分別科目名	4 月期	10 月期	計
呼吸器(気道確保に係るもの) 関連	9	5	14
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの) 関連	8	8	16
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの) 関連	11	5	16
循環器関連	2	5	7
胸腔ドレーン管理関連	4	0	4
腹腔ドレーン管理関連	4	0	4
ろう孔管理関連	6	4	10
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理) 関連	14	8	22
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連	6	5	11
創傷管理関連	9	7	16
創部ドレーン管理関連	6	2	8
動脈血液ガス分析関連	13	15	28
透析管理関連	0	0	0
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	16	13	29
感染に係る薬剤投与関連	6	5	11
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	0	0	0
術後疼痛管理関連	8	4	12
循環動態に係る薬剤投与関連	8	6	14
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	1	1	2
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	4	1	5
計	135	94	229
在宅・慢性期領域パッケージ	6	4	10
外科術後病棟管理領域パッケージ	3	0	3
術中麻酔管理領域パッケージ	1	1	2
外科系基本領域パッケージ	2	2	4
集中治療領域パッケージ	2	2	4
計	17	11	23

2) 修了生の概要

2023 年 3 月に修了した受講生の入講時の区分別科目希望数は 135 区分であった。しかし、区分を追加した受講者が多かったため、修了区分数が 147 区分と増加した。また、研修生が所属する自施設を協力施設として研修生するものが増えつつある傾向にあった。協力施設での実習は、実習期間を長く確保できる利点があるが、その一方で、業務と実習を両立するための調整が重要であり、調整がうまく行くためには、研修生はもとより、研修生の所属する施設の看護管理者等の理解・支援が重要である。そこで、進捗状況等について把握できるよう定期的に連絡を取り合うなど協力施設の指導者・看護管理者との定期的な連絡体制を整

えたり、遠隔会議での相談ができるようにしたりと、工夫をした。また、協力施設での実習での症例確保が困難な場合には、本センターにてシミュレーション症例で代替できる対策なども講じた。また、パッケージ受講者には、実習開始前から所属施設との勤務調整をすすめ、所属施設のフォロー体制を整えるようサポートした。

表 4 2022 年度の区分別科目修了数

区分別科目名	9 月	3 月	計
呼吸器(気道確保に係るもの) 関連	7	11	18
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの) 関連	9	12	21
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの) 関連	14	8	22
循環器関連	3	5	8
胸腔ドレーン管理関連	5	4	9
腹腔ドレーン管理関連	2	4	6
ろう孔管理関連	13	4	17
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理) 関連	10	15	25
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連	6	7	13
創傷管理関連	12	8	20
創部ドレーン管理関連	5	6	11
動脈血液ガス分析関連	11	16	27
透析管理関連	1	1	2
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	18	17	35
感染に係る薬剤投与関連	3	6	9
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	2	0	2
術後疼痛管理関連	6	11	17
循環動態に係る薬剤投与関連	4	8	12
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	2	1	3
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	2	3	5
計	135	147	282
在宅・慢性期領域パッケージ	8	4	12
外科術後病棟管理領域パッケージ	2	3	5
術中麻酔管理領域パッケージ	1	1	2
外科系基本領域パッケージ	1	2	3
集中治療領域パッケージ	1	2	3
計	13	12	25

Ⅱ 看護師特定行為研修センター活動報告

1. 教育報告

共通科目

(1).臨床推論/フィジカルアセスメント I

a. スタッフ

指導者	松村正巳 鈴木義彦 村上礼子
指導補助者	川上勝 佐々木彩加

b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程(フィジカルアセスメント含む)について学修する。

c. 時間数

34 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

41 名

(2).臨床推論/フィジカルアセスメント II

a. スタッフ

指導者	松村正巳 鈴木義彦 村上礼子
指導補助者	川上勝 佐々木彩加

b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

c. 時間数

26 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

f. 科目取得状況

41 名

(3).病態生理/疾病論 I

a. スタッフ

指導者	倉科智行 関山友子
指導補助者	春山早苗 平尾温司 川上勝

b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

c. 時間数

29 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

41 名

(4).病態生理／疾病論Ⅱ

a. スタッフ

指導者	倉科智行 関山友子
指導補助者	春山早苗 平尾温司 川上勝

b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的に迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

c. 時間数

32 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

41 名

(5).臨床薬理学

a. スタッフ

指導者	今井靖 大塚公一郎 村上礼子
指導補助者	大友慎也 川上勝 江角伸吾(4 月期) 佐々木彩加(10 月期)

b. 学習目的

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上

を図るための知識と技術を学ぶ。
代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

- c. 時間数
42 時間
- d. 研修方法
講義(eラーニング)
- e. 評価方法
单元ごとに事後テストを行い、100 点満点をもって、次の单元に進む。
最終单元修了後、修了試験(筆記試験)を受験する。修了試験は 100 点満点で、60 点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。
- f. 科目取得状況
41 名

(6).医療安全学

- a. スタッフ

指導者	新保昌久 遠山信幸 村上礼子
指導補助者	川上勝 関山友子 浅田義和 相場雅代(4 月期) 亀森康子 飯田久子(10 月期)

- b. 学習目的
安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。
- c. 時間数
10 時間
- d. 研修方法
講義(eラーニング)、演習
- e. 評価方法
筆記試験(最終回)
小テストまたは課題レポート(各回)
- f. 科目取得状況
41 名

(7).特定行為と手順書

- a. スタッフ

指導者	新保昌久 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	関山友子 亀田美智子 川上勝

- b. 学習目的
多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

- c. 時間数
14 時間
- d. 研修方法
講義(eラーニング)
- e. 評価方法
筆記試験
- f. 科目取得状況
41 名

(8).特定行為と基礎実習 I

- a. スタッフ

指導者	松村正己 白石裕子 鈴木義彦 森壘 大塚公一郎 村上礼子 倉科智行 鈴木美津枝
指導補助者	春山早苗 川上勝 関山友子 浅田義和 大友慎也 佐々木彩加 江角伸吾 (4 月期)

- b. 学習目的
チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。
- c. 時間数
38 時間
- d. 研修方法
講義(eラーニング)
- e. 評価方法
eラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。
集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。
- f. 科目取得状況
43 名

(9).特定行為基礎実習 II

- a. スタッフ

指導者	松村正己 石川鎮清 畠山修司 松山泰 石川由紀子 山本祐 石澤彩子 新保昌久 井野裕治 倉科智行 菅原斉 藤田英雄 山口泰弘 崎山快夫 真嶋浩聡 賀古真一 原 一雄 森下義幸 遠山信幸 村上礼子 鈴木美津 枝 瀧上理子(4 月期) 小竹茂(4 月期) 白石裕子(10 月期) 神谷尚子(10 月期) 神田直樹(10 月期)
指導補助者	亀森康子 川上勝 佐々木彩加

- b. 学習目的
チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得す

る。

c. 時間数
25 時間

d. 研修方法
実習

e. 評価方法
観察評価:病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

f. 科目取得状況
43 名

2. 区分別科目

(10).呼吸器関連 気道確保 I

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 平幸輝 藤内研 島惇 今長谷尚史 佐多奈歩 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子
指導補助者	川上勝 古島幸江 鈴木美津枝 佐々木彩加 谷島雅子 荒井和美 遠藤沙 希 草浦理恵 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 八木橋智子(4月期)

b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

7時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

18名

(11).呼吸器関連 気道確保 II

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村 福広 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 平幸輝 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子 島惇(4月期)
指導補助者	川上勝 古島幸江 鈴木美津枝 佐々木彩加 谷島雅子 荒井和美 遠藤沙 希 草浦理恵 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 八木橋智子(4月期)

b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク(BVM)を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技試験(OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況

18名

(12).呼吸器関連 人工呼吸療法 I

a. スタッフ

指導者	讃井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 竹内護 平幸輝 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子 島惇 (4 月期)
指導補助者	古島幸江 谷島雅子 荒井和美 遠藤沙希 草浦理恵 川上勝 鈴木美津枝 佐々木彩加 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 八木橋智子(4 月期)

b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。
チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

c. 時間数

29 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

21 名

(13).呼吸器関連 人工呼吸療法 II

a. スタッフ

指導者	讃井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 間藤卓 米川力 伊澤祥光 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 清水敦 竹内護 平幸輝 堀田訓久 布宮伸 方山真朱 小山寛介 村上礼子 島惇 (4 月期)
指導補助者	古島幸江 谷島雅子 荒井和美 遠藤沙希 草浦理恵 川上勝 鈴木美津枝 佐々木彩加 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 八木橋智子(4 月期)

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV(非侵襲的陽圧換気療法)時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 修了条件症例数

20 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

- f. 科目取得状況
21名

(14). 呼吸器関連 長期呼吸療法

- a. スタッフ

指導者	西野宏 伊藤真人 佐々木徹 島田茉莉 小野滋 馬場勝尚 清水敦 讃井將満 塩塚潤二 布宮伸 方山真朱 小山寛介 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 吉田尚弘 鈴木政美 金沢弘美 萩原弘一 村上礼子 窪田和(4月期) 長友孝文(4月期) 島惇(4月期) 高橋さとか(4月期) 高崎俊和(10月期) 川合謙介(10月期) 金澤丈治(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期)
指導補助者	黒田光恵 喜田幸子 草浦理恵 川上勝 鈴木美津枝 佐々木彩加 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 里光やよい 八木橋智子(4月期) 永田香織里(10月期)

- b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

- c. 時間数
8時間

- d. 研修方法
講義、実習

- e. 評価方法
筆記試験、実技試験 (OSCE)、観察評価

- f. 科目取得状況
22名

(15).循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS等) I

- a. スタッフ

指導者	清水勇人 相澤啓 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 讃井將満 塩塚潤二 原田顕治 牧尚孝 村上礼子
指導補助者	神山淳子 草浦理恵 小久保領 川上勝 佐々木彩加 八木橋智子(4月期) 中川温美(10月期)

- b. 学習目的

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

- c. 時間数
20時間

- d. 研修方法
講義(eラーニング)

- e. 評価方法
最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

- f. 科目取得状況
8名

(16).循環器管理関連(一時的ペースメーカー・PCPS等)II

- a. スタッフ

指導者	清水勇人 相澤啓 藤田英雄 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 讃井将満 塩塚潤二 原田顕治 牧尚孝 村上礼子
指導補助者	神山淳子 草浦理恵 小久保領 川上勝 佐々木彩加 八木橋智子(4月期) 中川温美(10月期)

- b. 学習目的
一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。
- c. 修了条件症例数
5症例
- d. 研修方法
演習、実習
- e. 評価方法
観察評価
- f. 科目取得状況
8名

(17).胸腔ドレーン管理関連 I

- a. スタッフ

指導者	相澤啓 金井義彦 坪地宏嘉 遠藤俊輔 大谷真一 清水敦 山口敦司 堀大治郎 村上礼子 柴野智毅(4月期)
指導補助者	梶原絢子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 鈴木美津枝(10月期)

- b. 学習目的
胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。
- c. 時間数
13時間
- d. 研修方法
講義(eラーニング)
- e. 評価方法
最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。
- f. 科目取得状況
9名

胸腔ドレーン管理関連Ⅱ

a. スタッフ

指導者	相澤啓 金井義彦 坪地宏嘉 遠藤俊輔 大谷真一 清水敦 山口敦司 堀大治郎 村上礼子 柴野智毅(4月期)
指導補助者	梶原絢子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 鈴木美津枝(10月期)

b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。
低圧胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

9 名

腹腔ドレーン管理関連Ⅰ

a. スタッフ

指導者	清水敦 太白健一 金丸理人(10月期) 力山敏樹 藤原寛行 種市明代 野田弘志 加藤高晴(4月期) 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 青木裕一(4月期) 辻仲眞康(4月期)
指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 鈴木美津枝

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

c. 時間数

8 時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

6 名

腹腔ドレーン管理関連Ⅱ

a. スタッフ

指導者	清水敦 太白健一 力山敏樹 藤原寛行 種市明代 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 青木裕一(4月期) 辻仲眞康(4月期) 加藤高晴(4月期) 金丸理人(10月期)
-----	---

指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 鈴木美津枝
-------	---------------------------------

b. 学習目的

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

6 名

ろう孔管理 I

a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 太白健一 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 鈴木美津枝 青木裕一(4 月期) 加藤高晴(4 月期) 辻仲眞康(4 月期) 金丸理人(10 月期)
指導補助者	黒田光恵 深野利恵子 島田裕子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 高安郁江(4 月期) 山越裕美(10 月期)

b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

17 名

ろう孔管理 II

a. スタッフ

指導者	細谷好則 倉科憲太郎 太白健一 小野滋 馬場勝尚 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 鈴木美津枝 青木裕一(4 月期) 加藤高晴(4 月期) 辻仲眞康(4 月期) 金丸理人(10 月期)
指導補助者	黒田光恵 深野利恵子 島田裕子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 高安郁江(4 月期) 山越裕美(10 月期)

b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識、判断と手技

を修得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

実技試験 (OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況

17 名

ろう孔管理 (膀胱ろうカテーテルの管理) III

a. スタッフ

指導者	藤村哲也 安藤聡 宮川友明 齊藤公俊 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	田村敦子 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 高安郁江(4 月期) 山越裕美(10 月期)

b. 学習目的

1. ろう孔造設に関連する病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

9 時間

d. 研修方法

講義 (e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

17 名

ろう孔管理 (膀胱ろうカテーテルの管理) IV

a. スタッフ

指導者	藤村哲也 安藤聡 宮川友明 齊藤公俊 村上礼子 鈴木美津枝
指導補助者	田村敦子 深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 高安郁江(4 月期) 山越裕美(10 月期)

b. 学習目的

ろう孔管理 III で学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法
実技評価(OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況
17名

栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 I

a. スタッフ

指導者	相澤啓 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 布宮伸 小山寛介 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 島惇(4月期) 辻仲真康(4月期) 加藤高晴(4月期)
指導補助者	神山淳子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 八木橋智子(4月期) 中川温美(10月期)

b. 学習目的
中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

c. 時間数
7時間

d. 研修方法
講義(eラーニング)

e. 評価方法
筆記試験

f. 科目取得状況
25名

栄養に係るカテーテル管理:中心静脈カテーテルの抜去 II

a. スタッフ

指導者	相澤啓 清水敦 讃井将満 塩塚潤二 布宮伸 小山寛介 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 間藤卓 伊澤祥光 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 島惇(4月期) 辻仲真康(4月期) 加藤高晴(4月期)
指導補助者	神山淳子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 八木橋智子(4月期) 中川温美(10月期)

b. 学習目的
中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

c. 修了条件症例数
5症例

d. 研修方法
実習

e. 評価方法
観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況
25名

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 I

a. スタッフ

指導者	大嶺謙 清水敦 賀古真一 仲宗根秀樹 布宮伸 小山寛介 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 鈴木美津枝 島惇(4月期) 山本千裕(4月期) 辻仲眞康(4月期) 加藤高晴(4月期) 森田薫(10月期) 川合謙介(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期)
指導補助者	森山海美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 齋藤由香里(10月期)

b. 学習目的
PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)挿入の根拠と方法を学習する。

c. 時間数
6時間

d. 研修方法
講義(eラーニング)

e. 評価方法
筆記試験

f. 科目取得状況
13名

PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)の挿入 II

a. スタッフ

指導者	大嶺謙 清水敦 賀古真一 仲宗根秀樹 布宮伸 小山寛介 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 鈴木美津枝 島惇(4月期) 山本千裕(4月期) 辻仲眞康(4月期) 加藤高晴(4月期) 森田薫(10月期) 川合謙介(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期)
指導補助者	森山海美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加 齋藤由香里(10月期)

b. 学習目的
PICC(末梢静脈挿入式静脈カテーテル)を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 修了条件症例数
5症例

d. 研修方法
実習

e. 評価方法
実技評価(OSCE)、観察評価

f. 科目取得状況

13名

創傷管理関連 褥瘡 I

a. スタッフ

指導者	前川武雄 山本直人 太田信子 村上礼子 鈴木美津枝 出光俊郎(4月期)
指導補助者	田口深雪 深野利恵子 内堀真弓 石井容子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加

b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態からの確に判断するための根拠と方法を学習する。

c. 時間数

24時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

27時間(14回)

f. 科目取得状況

20名

創傷管理関連 褥瘡 II

a. スタッフ

指導者	前川武雄 山本直人 太田信子 村上礼子 鈴木美津枝 出光俊郎(4月期)
指導補助者	田口深雪 深野利恵子 内堀真弓 石井容子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加

b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

講義(eラーニング)、実習

e. 評価方法

OSCE(壊死組織除去のみ)、観察評価(壊死組織除去、陰圧閉鎖療法)

f. 科目取得状況

20名

創部ドレーン管理関連 I

a. スタッフ

指導者	清水敦 太白健一 北山丈二 原尾美智子 櫻木雅子 相澤啓 金井義彦 藤原寛行 種市明代 山口敦司 堀大治郎 力山敏樹 野田弘志 加藤高晴 (4月期) 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 青木裕一(4月期)
-----	--

	長友孝文(4月期) 高橋さとか(4月期) 辻仲眞康(4月期) 金丸理人(10月期) 伊藤真人(10月期) 金澤丈二(10月期) 西野宏(10月期) 佐々木徹(10月期) 島田茉莉(10月期) 野澤美樹(10月期) 竹下克志(10月期) 井上泰一(10月期) 樋山秀平(10月期) 川合謙介(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期)
指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 鈴木美津枝

b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

c. 時間数

5時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

11名

創部ドレーン管理関連Ⅱ

a. スタッフ

指導者	清水敦 太白健一 北山丈二 原尾美智子 櫻木雅子 相澤啓 金井義彦 藤原寛行 種市明代 山口敦司 堀大治郎 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 青木裕一(4月期) 辻仲眞康(4月期) 加藤高晴(4月期) 高橋さとか(4月期) 金丸理人(10月期) 伊藤真人(10月期) 金澤丈二(10月期) 西野宏(10月期) 佐々木徹(10月期) 島田茉莉(10月期) 野澤美樹(10月期) 竹下克志(10月期) 井上泰一(10月期) 樋山秀平(10月期) 川合謙介(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期)
指導補助者	深野利恵子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 鈴木美津枝

b. 学習目的

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

11名

動脈血液ガス分析Ⅰ

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 遠藤俊輔 間藤卓 米川力 伊澤祥光 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 大谷真一 萩原弘一 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 布宮
-----	--

	伸 小山寛介 村上礼子 鈴木美津枝 柴野智毅(4 月期) 島惇(4 月期) 瀧上理子(4 月期) 高崎俊和(10 月期)
指導補助者	中川温美 谷島雅子 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

c. 時間数

11 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

27 名

動脈血液ガス分析 II

a. スタッフ

指導者	讚井將満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 遠藤俊輔 間藤卓 米川力 伊澤祥光 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 大谷真一 萩原弘一 松村福広 渡邊伸貴 新庄貴文 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 布宮伸 小山寛介 村上礼子 鈴木美津枝 柴野智毅(4 月期) 島惇(4 月期) 瀧上理子(4 月期) 高崎俊和(10 月期)
指導補助者	谷島雅子 中川温美 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 川上勝 佐々木彩加

b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

実技試験(OSCE)・観察評価

f. 科目取得状況

27 名

透析管理 I

a. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰祐 齋藤修 村上礼子 鈴木美津枝 植田裕一郎(4 月期) 宮澤晴久(4 月期) 布宮伸(10 月期) 小山寛介(10 月期) 方山真朱(10 月期) 藤内研(10 月期) 今長谷尚史(10 月期) 佐多奈歩(10 月期) 平田桃子(10 月期) 湊さおり(10 月期) 睦好祐子(10 月期)
指導補助者	内田隆行 松岡諒 川上勝 佐竹晃(4 月期) 富田みずの(10 月期) 時任美

	穂(10月期) 加藤恵美(10月期)
--	--------------------

b. 学習目的

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

c. 時間数

11時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

2名

透析管理Ⅱ

a. スタッフ

指導者	森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰祐 齋藤修 村上礼子 鈴木美津枝 植田裕一郎(4月期) 宮澤晴久(4月期) 布宮伸(10月期) 小山寛介(10月期) 方山真朱(10月期) 藤内研(10月期) 今長谷尚史(10月期) 佐多奈歩(10月期) 平田桃子(10月期) 湊さおり(10月期) 睦好祐子(10月期)
指導補助者	内田隆行 松岡諒 川上勝 佐竹晃(4月期) 富田みずの(10月期) 時任美穂(10月期) 加藤恵美(10月期)

b. 学習目的

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

2名

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整Ⅰ

a. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 太白健一 金丸理人(10月期) 川合謙介(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期) 布宮伸(10月期) 小山寛介(10月期) 方山真朱(10月期) 藤内研(10月期) 今長谷尚史(10月期) 佐多奈歩(10月期) 青木裕一(4月期) 今井利美 長田太助 賀古真一 仲宗根秀樹 清水敦 力山敏樹 野田弘志 辻仲眞康(4月期) 加藤高晴(4月期) 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子
-----	--

指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 湯山美杉 佐々木彩加 川上勝
-------	---

b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

c. 時間数

8 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

35 名

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

a. スタッフ

指導者	石橋俊 倉科憲太郎 太白健一 今井利美 長田太助 賀古真一 仲宗根秀樹 清水敦 力山敏樹 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 青木裕一(4 月期) 辻仲真康(4 月期) 加藤高晴(4 月期) 金丸理人(10 月期) 川合謙介(10 月期) 大谷啓介(10 月期) 檜垣鮎帆(10 月期) 布宮伸(10 月期) 小山寛介(10 月期) 方山真朱(10 月期) 藤内研(10 月期) 今長谷尚史(10 月期) 佐多奈歩(10 月期)
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 湯山美杉 佐々木彩加 川上勝

b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

35 名

脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) I

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 長田太助 平幸輝 今井利美 畠山修司 竹内護 堀田訓久 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰佑 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 青木裕一(4 月期) 植田裕一郎(4 月期) 金丸理人(10 月期) 川合謙介(10 月期) 大谷啓介(10 月期) 檜垣鮎帆(10 月期) 布宮伸(10 月期) 小山寛介(10 月期) 方山真朱(10 月期) 藤内研(10 月期)
-----	--

	今長谷尚史(10月期) 佐多奈歩(10月期) 平田桃子(10月期) 湊さおり(10月期) 睦好祐子(10月期)
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 湯山美杉 佐々木彩加 川上勝

b. 学習目的

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

c. 時間数

8時間

d. 研修方法

講義(eラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

35名

脱水と補液(脱水の程度の判断と補液による補正) II

a. スタッフ

指導者	清水敦 倉科憲太郎 太白健一 長田太助 平幸輝 今井利美 畠山修司 竹内護 堀田訓久 森下義幸 大河原晋 平井啓之 伊藤聖学 北野泰佑 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 青木裕一(4月期) 植田裕一郎(4月期) 宮澤晴久(4月期) 金丸理人(10月期) 川合謙介(10月期) 大谷啓介(10月期) 檜垣鮎帆(10月期) 布宮伸(10月期) 小山寛介(10月期) 方山真朱(10月期) 藤内研(10月期) 今長谷尚史(10月期) 佐多奈歩(10月期) 平田桃子(10月期) 湊さおり(10月期) 睦好祐子(10月期)
指導補助者	古内三基子 釜井聡子 荒川昌史 中川温美 長谷部忠史 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 湯山美杉 佐々木彩加 川上勝

b. 学習目的

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

c. 修了条件症例数

5症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価(DOPS)

f. 科目取得状況

35名

感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)

a. スタッフ

指導者	森澤雄司 市橋 光 福地貴彦 村上礼子
指導補助者	大友慎也 阿部奈美 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史 角川志穂 佐々木彩加 川上勝

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 時間数

29 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)、演習

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

9 名

感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為:感染に係る薬剤投与関連)

a. スタッフ

指導者	森澤雄司 市橋 光 福地貴彦 村上礼子
指導補助者	大友慎也 阿部奈美 佐々木一雅 水上由美子 立石直人 長谷部忠史 角川志穂 佐々木彩加 川上勝

b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価

f. 科目取得状況

9 名

インスリン投与量の調整 I

a. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 村上礼子 長谷川直人 馬場千恵子 (4 月期)
指導補助者	鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史 川上勝 新井茉美 (10 月期)

b. 学習目的

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

c. 時間数

16 時間

d. 研修方法
講義(e ラーニング)

e. 評価方法
筆記試験

f. 科目取得状況
2名

インスリン投与量の調整Ⅱ

a. スタッフ

指導者	石橋俊 岡田健太 原一雄 吉田昌史 村上礼子 長谷川直人 馬場千恵子(4月期)
指導補助者	鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 羽鳥智子 長谷部忠史 川上勝 新井茉美(10月期)

b. 学習目的
インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

c. 修了条件症例数
5症例

d. 研修方法
演習、実習

e. 評価方法
観察評価、課題レポート

f. 科目取得状況
2名

術後疼痛管理関連

a. スタッフ

指導者	竹内護 堀田訓久 平幸輝 坪地宏嘉 金井義彦 細谷好則 清水敦 太白健一 遠藤俊輔 大谷真一 力山敏樹 讃井将満 大塚祐史 飯塚悠祐 野田弘志 渡部文昭 武藤雄太 蓬原一茂 村上礼子 青木裕一(4月期) 辻仲真康(4月期) 加藤高晴(4月期) 金丸理人(10月期)
指導補助者	川上勝 鈴木美津枝 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 佐々木彩加(10月期)

b. 学習目的
チーム医療の中で安全に硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

c. 時間数
8時間

d. 研修方法
講義(e ラーニング)

e. 評価方法
筆記試験

f. 科目取得状況
17名

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 I

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 清水勇人 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 間藤卓 伊澤祥光 藤田英雄 布宮伸 原田顕治 小山寛介 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 牧尚孝 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 讃井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 島惇(4月期)
指導補助者	川上勝 鈴木美津枝 佐々木彩加 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 梶原絢子(4月期) 遠藤沙希(10月期)

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

c. 時間数
28時間

d. 研修方法
講義(eラーニング)

e. 評価方法
筆記試験

f. 科目取得状況
12名

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液)の病態に応じた調整 II

a. スタッフ

指導者	苅尾七臣 清水勇人 清水敦 竹内護 堀田訓久 平幸輝 間藤卓 伊澤祥光 藤田英雄 布宮伸 原田顕治 小山寛介 方山真朱 藤内研 今長谷尚史 佐多奈歩 松村福広 米川力 渡邊伸貴 新庄貴文 牧尚孝 坂倉建一 和田浩 谷口陽介 山本慶 讃井将満 塩塚潤二 大塚祐史 飯塚悠祐 村上礼子 島惇(4月期)
指導補助者	川上勝 鈴木美津枝 佐々木彩加 神山淳子 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 富田みずの 時任美穂 加藤恵美 長谷部忠史 梶原絢子(4月期) 遠藤沙希(10月期)

b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤(降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液)の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況

12 名

精神科薬物療法と看護Ⅰ(精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 西依康 川合謙介 大谷啓介 岡島美朗 齊藤慎之介 讃井将満 塩塚潤二 崎山快夫 堤内路子 草鹿元 元 伊古田雅史 村上礼子 佐藤伸秋(4 月期)稲川優多(10 月期)佐藤謙伍 (10 月期)檜垣鮎帆(10 月期)
指導補助者	永井優子 鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 富田みずの 時任 美穂 加藤恵美 川上勝 長谷部忠史 石井慎一郎(4 月期)

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

c. 時間数

26 時間

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

最終回の筆記試験で 60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。(ルーブリック参照)

f. 科目取得状況

3 名

精神科薬物療法と看護Ⅱ(精神・神経症状にかかる薬物投与関連)

a. スタッフ

指導者	大塚公一郎 須田史朗 塩田勝利 安田学 西依康 川合謙介 大谷啓介 岡島美朗 齊藤慎之介 讃井将満 塩塚潤二 崎山快夫 堤内路子 草鹿元 伊古田雅史 村上礼子 佐藤伸秋(4 月期)稲川優多(10 月期)佐藤謙伍(10 月 期)檜垣鮎帆(10 月期)
指導補助者	永井優子 鈴木美津枝 釜井聡子 奥田泰考 大友慎也 富田みずの 時任美 穂 加藤恵美 川上勝 長谷部忠史 石井慎一郎(4 月期)

b. 学習目的

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬)の投与に関する判断ができる。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法

演習、実習

e. 評価方法

4/5 以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する(ルーブリック参照)。

f. 科目取得状況

3 名

抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 I

a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 藤井博文 山口博紀 前川武雄 藤原寛行 種市明代 萩原弘一 瀧上理子(4 月期) 鈴木浩一 賀古真一 仲宗根秀樹 村上礼子 山本千裕(4 月期) 森田薫(10 月期) 高崎俊和(10 月期)
指導補助者	小原泉 鈴木美津枝 飯塚由美子 山本真由美 川上勝 富田みずの 時任 美穂 加藤恵美 奥田泰考 森山海美 長谷部忠史

b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

c. 時間数

17 時間

d. 研修方法

講義(e ラーニング)

e. 評価方法

筆記試験

f. 科目取得状況

抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施 II

a. スタッフ

指導者	神田善伸 大嶺謙 藤井博文 山口博紀 前川武雄 藤原寛行 種市明代 萩原弘一 鈴木浩一 賀古真一 仲宗根秀樹 村上礼子 山本千裕(4 月期) 瀧上理子(4 月期) 高崎俊和(10 月期)
指導補助者	小原泉 鈴木美津枝 飯塚由美子 山本真由美 川上勝 富田みずの 時任 美穂 加藤恵美 奥田泰考 森山海美 長谷部忠史

b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

c. 修了条件症例数

5 症例

d. 研修方法
演習、実習

e. 評価方法
臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

f. 科目取得状況
5名

研究報告

・論文

1. 神崎秀嗣, 村上礼子, 坂田信裕:さまざまな社会変化に耐え得る看護師育成のヒントに! 看護師のキャリア形成における新しい考え方と支援策(第2回) 看護師育成の課題と現状 看護師のキャリア開発看護人材育成 19 巻 2 号, p69-74, 2022.06.
2. 八木(佐伯)街子, 益田美津美, 浅田 義和, 上原明子, 山内豊明, 村上礼子:福祉・医療の現場から 看護技術の完全習得学習を目的とした遠隔学習プログラムに関するデザイン研究, 地域ケアリング 24(9) , p39-41, 2022.08.
3. 佐田尚宏, 清水敦, 村上礼子:外科医の働き方改革と特定行為研修修了者の協働 当院における地域医療を守る抜本的働き方改革の取り組み, 日本外科学会雑誌 123(5), p477-479, 2022.09.
4. 角野友香理, 小室るみ, 中田徹朗, 村上礼子:【特定行為看護師の育成と組織づくり】(PART 3) オンライン座談会 特定行為看護師の育成・活用に立ちはだかる課題と解決策について, 看護展望 47(12), p1124-1130, 2022.10.
5. 長谷川直人, 村上礼子, 八木(佐伯)街子, 春山早苗, 江角 伸吾:「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関の研修体制の実態, 厚生指標 70(1) , p24-32, 2023.01.

・学会発表

1. 佐田尚宏, 清水敦, 村上礼子:当院における地域医療を守る抜本的働き方改革の取り組み, 第122回日本外科学会定期学術集会(2022年4月14日, 熊本)
2. 村上礼子:在宅医療の担い手となる看護師の育成 特定行為研修の指定研修機関の取り組み, 第4回日本在宅医療連合学会大会(2022年7月23日, 兵庫)
3. 村松真吾, 村上礼子:「在宅に関わる看護師の育成」, 第4回日本在宅医療連合学会大会(2022年7月23日, 兵庫)

・競争的研究資金

1. 永井良三(研究代表), 村上礼子, 川上勝, 前原正明, 見城明, 飯室聡: 看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究、厚生労働科学研究費助成金(地域医療基盤開発推進研究事業), 2023- 2024 年度.

2022年度 特定行為関連

長谷川 直人(自治医科大学 看護学部), 村上 礼子, 八木 街子, 春山 早苗, 江角 伸吾:「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関の研修体制の実態、厚生指針(0452-6104)70 巻 1 号 Page24-32(2023.01)

佐田 尚宏(自治医科大学 消化器一般移植外科), 清水 敦, 村上 礼子:外科医の働き方改革と特定行為研修修了者の協働 当院における地域医療を守る抜本的働き方改革の取り組み、日本外科学会雑誌(0301-4894)123 巻 5 号 Page477-479(2022.09)

角野 友香理(徳洲会札幌徳洲会病院 看護部 ICU), 小室 るみ, 中田 徹朗, 村上 礼子:【特定行為看護師の育成と組織づくり】(PART 3)オンライン座談会 特定行為看護師の育成・活用に立ちはだかる課題と解決策について、看護展望(0385-549X)47 巻 12 号 Page1124-1130(2022.10)

村上 礼子(自治医科大学 看護学部):在宅医療の担い手となる看護師の育成 特定行為研修の指定研修機関の取り組み、日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集 4 回 Page72(2022.07)

八木 街子[佐伯](ハワイ大学 医学部シミュレーションセンター), 益田 美津美, 浅田 義和, 上原 明子, 山内 豊明, 村上 礼子:福祉・医療の現場から 看護技術の完全習得学習を目的とした遠隔学習プログラムに関するデザイン研究、地域ケアリング(1345-0123)24 巻 9 号 Page39-41(2022.08)

神崎 秀嗣(秀明大学 看護学部), 村上 礼子, 坂田 信裕:さまざまな社会変化に耐え得る看護師育成のヒントに! 看護師のキャリア形成における新しい考え方と支援策(第 2 回) 看護師育成の課題と現状 看護師のキャリア開発、看護人材育成 19 巻 2 号 Page69-74(2022.06)

佐田 尚宏(自治医科大学 消化器一般移植外科), 清水 敦, 村上 礼子:当院における地域医療を守る抜本的働き方改革の取り組み、日本外科学会定期学術集会抄録集 122 回 Page SP-02-4(2022.04)

八木(佐伯)街子, 鈴木美津枝, 鈴木 義彦, 倉科 智行, 白石 裕子, 大塚公一郎, 村上 礼子:特定行為に係る看護師の研修における共通科目での実習設計ー特定行為基礎実習 I についてー、Jichi Medical University Journal 44 53-59, 2022-03

村上 礼子:周術期チームで活躍できる術中麻酔管理領域パッケージの特定行為研修修了看護師の育成 : 研修制度と研修プログラム,研修の実際、日本手術医学会誌 43 (1), 56-61, 2022-02